

特別連載

Vol.18

第1回日本ワールドシリーズ 優勝ペナント

本連載の第2回で、1950年第1回日本ワールドシリーズのポスターを紹介しましたが、今回は同年の優勝ペナントを紹介します。

1949年のシーズン終了後セ・パ両連盟が誕生し、翌50年からセ・リーグ8球団、パ・リーグ7球団による2リーグ制がスタートします。秋には大リーグと同じように両リーグ優勝チームによる優勝決定戦を開催、現在もセ・リーグ記録として残る98勝を挙げた松竹ロビンスと、2位に15ゲーム差の独走でパ・リーグ優勝を果たした毎日オリオンズにより、最初の日本ワールドシリーズが行われました（「日本ワールドシリーズ」は1953年の第4回までの正式名称、翌年から「日本シリーズ」となった）。

当時はフランチャイズ制確立以前でもあり、開催球場は神宮、後樂園、甲子園、西宮、中日、大阪と

各地で開催され、4勝2敗で毎日が最初のシリーズ優勝を達成しました。

毎日には優勝ペナントが授与され、これが現在当博物館に収蔵されています。サイズは横250cm×縦118cmのとても大きなサイズで、第1戦の行われた11月22日付の読売新聞には「長さ8尺、幅4尺、赤地に金文字の堂々たるもので、製作費10万円」と紹介されています。

当館では1リーグ時代の優勝ペナントも複数収蔵していますが、縦長のホームベース型で横51.5cm×縦72cmなので、日本ワールドシリーズ開催を機に大変豪華になったといえます。

現在もこのペナントがシリーズ優勝の記念として贈呈されており、横300cm×縦140cmとより大きなサイズで、NPBのロゴマークと優勝年度、

「NIPPON CHAMPIONS」が刺繍されています。なお、ペナントの色は、コバルト、ボタン（ピンク）、赤、紫、グリーンが年毎に順に使用されており（1985年から）、2013年は紫地の優勝ペナントが優勝チームに贈られます。

公益財団法人野球殿堂博物館 学芸員 関口貴広

